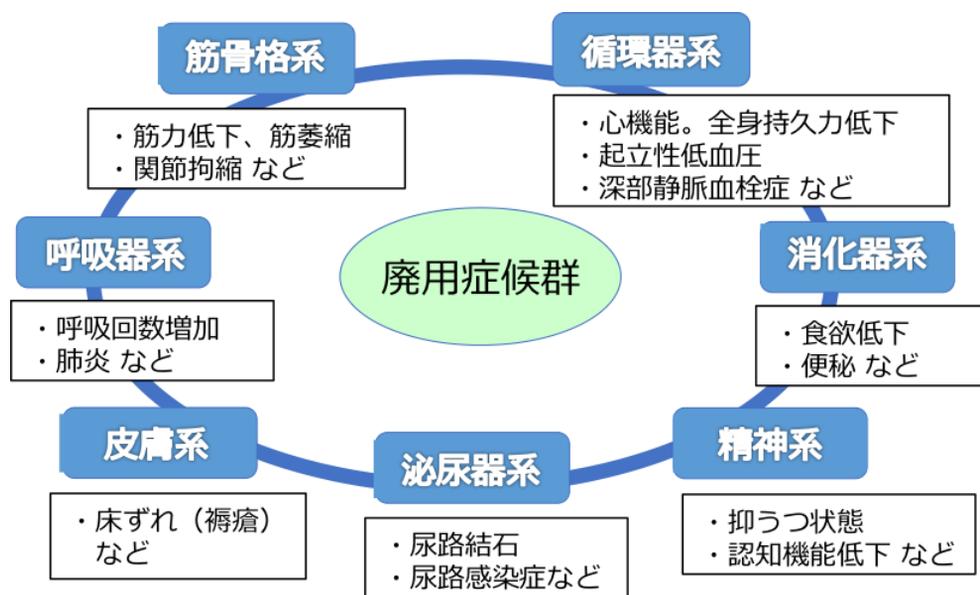


廃用症候群に対するリハビリテーション

廃用症候群とは、過度に安静にすることや、活動性が低下したことによる身体に生じた様々な状態を示します。長期間ベッドで寝ていた場合には、原疾患の治療経過の裏側で、生理学的変化として廃用症候群による心身の症状が起こり得ます。当科では、廃用症候群の予防や早期回復に向けて、各診療科と共同しながら、リハビリテーションを提供しています。

廃用症候群による心身に及ぼす影響



各科との連携内容

腎臓内科



総合内科



糖尿病・内分泌代謝内科



各科とも週1回、医師・看護師・PTでカンファレンスを実施しています。

糖尿病教育入院指導

当院では、糖尿病に対する教育入院を約1～2週間程度実施しています。当科では、主に運動に関する指導を実施しています。

糖尿病教室



糖尿病に関する知識や運動療法の効果について、月2回の集団での講義による指導を行なっています。

個別指導



運動内容を、ご自身の生活状況と照らし合わせながら、運動計画を立案し、自宅での指導しています。

体成分分析装置 (IN BODY)

入院時に、部位別の筋肉量や脂肪量など測定します。



妊娠糖尿病 (GDMについて)

妊娠糖尿病 (以下GDM) とは、妊娠中に、初めて認識された糖代謝異常のことを言います。2021年11月より、妊娠糖尿病教育入院パスワーキングも開始し、他職種と連携して運動に関する内容を検討しています。

